

# 木更津市史編さんだより

木更津の歴史・文化・自然再発見マガジン



発行者 木更津市教育委員会 教育部文化課

〒292-8501 木更津市朝日3-10-19 木更津市役所朝日庁舎

Tel:0438-23-5309 Fax:0438-25-3991 E-mail:bunka@city.kisarazu.lg.jp

## 第8号

### 目次

P.1. 講演記録 木更津市の巨樹・巨木  
P.10. 市史編さん部会の活動報告

### 講演記録

令和5年度きさらづ市民カレッジ地元学  
コース第7回で木更津市史編さん部会自然部  
会部会委員が講師を務め、4月に公開される  
新しい『木更津市史 自然編 資料』から植物  
部分の一部を取り上げて講演しました。

### 木更津市の巨樹・巨木

自然部会 木暮文雄

みなさんこんにちは、木暮文雄と申します。  
大きな木が大好きな人間です。よろしくお願  
いします。木更津市史自然編で、私の担当は  
植物分類学。木更津市の維管束植物、種子植  
物、シダ植物のすべてを調べ、市史に記録す  
る担当です。

木更津市に生育する、維管束植物は、調査  
の結果、1、622種。近隣市町村に比べて  
も、かなり多くの種類があるということがわ  
かりました。そのなかの維管束植物について、  
つまりシダと、種子植物を調べました。維管  
束植物っていいましたけども、これ以外に、  
非維管束植物という、キノコとか、菌類とか、  
コケとかについては、専門家がいなかったの

で今回、調べておりませんが、そのなかの一  
環として、巨樹・巨木を調べたわけです。初  
めに申し上げますが、巨樹・巨木は、人間の  
数倍も生きて、地域の気候、地質などの自然  
環境や、歴史を、幹の太さや、高さの形で、  
表現しています。また、空気中の二酸化炭素  
(CO<sub>2</sub>)を、光合成により炭化水素(有機  
物)オーガニックマター)に変えて、数百年  
も生き続け、地球環境の保全に役立っていま  
す。

木更津市では、市史編さん事業の分野に自  
然部会を設け、維管束植物の種数や、植生の  
調査を県立中央博物館と合同で行っていま  
す。これに関連して、巨樹・巨木の調査を並  
行して進め、市内に生育する約400本の候  
補樹を、市民ボランティアの協力を得て、測  
定調査し、約4年の歳月をかけて、255本  
の巨樹・巨木を確認し、市史資料を作成しま  
した。

ここでは、世界や、日本国内と、千葉県内に  
存在する樹木をインターネット情報や、関連  
文献から引用して、概要を紹介し、木更津市  
に生育する巨樹・巨木の調査結果を詳細に解  
説します。

世界にどれくらい大きい木があるか、日本  
にはどれくらい大きい木があるか、また、木  
更津市はどんな程度だということを知って

いただくために、世界のものも若干述べていきたいと思えます。

では巨樹・巨木とは何か。環境省自然環境局生物多様性センターでは、基準値を設定し、計測マニュアルを発行して、調査を奨励しています。

巨樹・巨木の定義ですが、①地上約130cmの位置で、幹周が、300cm以上の樹木。

②地上約130cmの位置において、幹が複数に分かれている場合は、それぞれの幹周の合計が300cm以上であり、主幹の幹周が200cm以上の樹木。

③樹種を指定し、樹種により、200cm・100cm以上も、対象としている。

④幹周のみに、基準値を定め、樹高、樹齢などは、定めていない。

⑤一般に、幹周が、3m以上を巨木とよび、5m以上を、巨樹と呼ぶ習慣がある。

このように環境省が決めております。巨樹、巨木といいますが、見た目大きいだけじゃなくで、基準があり、きちつと決まりがあるということ、こういうことをもとに調べました。

次に、世界の巨樹。世界で一番大きな木はシヤーマン將軍杉。場所はアメリカのカルフオルニア州。樹種はセコイヤデンドロン、科

名はヒノキ科。幹周が31.1m、樹高が、83.8m、推定樹齢が2、200年。体積は1,487m<sup>3</sup>。幹周が31.1mというものは、円周率3.14で割ると、10mになります。直径10mあるということです。樹種のセコイヤというのは、杉の一種ですね。

日本の巨樹・巨木ですが、全国の樹種別の本数は2018年の環境省生物多様性センターに登録された集計数は、約6万5千本です。1991年のデータでは55,798本。

このうちの樹種別上位30種のうち木更津市にあるものを、これから示します。スギは木更津市にあります。ケヤキもあります。クスノキもあります。イチヨウもありません。シイノキはスダジイのことです、あります。タブノキもあります。マツはありません。カシノキはあります。ムクノキもありません。モミもあります。エノキもありません。サクラもあります。カヤもありません。ヒノキはありません。ミズナラもありません。トチノキもありません。カツラはあります。ブナはあります。ハルニレはあります。サワラはあります。アカウもありません。ツガはあります。イヌマキもありません。ホルトノキはあります。イチイもありません。クロガネモチはあります。イブキもありません。クリもありません。コウヤマキもありません。ヤマモモは

あります。

ということで30種のうち、19種が木更津にあります。ないものが11種です。ここでいまま、聞きなれないものがあります。例えばブナは、東北地方や、山間部に行くと、いっぱいあるんですけども、千葉県にはブナは生存していません。それから、アカウツというの、これはクワ科の常緑樹で、ガジュマルに近い植物で、南方系で木更津にはありません。

それから、ホルトノキというのは、これは昔、シーボルトの名前をもじってつけた木ですが、これは木更津にはありませんけれども、大きい木はありません。イチイやイブキは、館山のほうには、ありますけれども、この辺にはありません。全国的には、スギが一番多いですが、木更津にはスギは少ないです。

全国の巨樹、巨木のランキング。一番が蒲生の大クス、クスノキですね。幹周が24.22m。鹿児島県の蒲生町つとところにあります。国の特別天然記念物です。28番目が清澄の大杉。千葉県にも大きいのがあるよということ、これは国の天然記念物です。

日本で、一番大きな木は、先ほど言いました。蒲生のクスノキ。鹿児島県ですね。これは、幹周が24.22m、樹齢が伝承ですが、1,500年。日本一高樹齢の木、名称は縄

文杉です。鹿児島県の屋久島町にあります。幹回りが16.4m、樹齢が3,000年。いろんな先生の話によりますと、7,000年という人もいますが、いずれにしても縄文時代ぐらいだろうとはいうので、正確にはわかりません。今の技術をもってすればわかるんですけれども、中が、うろになつて、シシがわからないために、サンプルがとれないので、カーボンアイソトープって、炭素の同位元素で測定することが可能なんですけども、実際にはやらないですね。

日本一背の高い木、これの名称は花脊の三本杉っていうのが、京都にあります。樹高が62.3m。樹齢は推定、1,000年から1,200年と言われております。

千葉県の巨樹・巨木ですが、千葉県の樹数と本数、千葉県の巨樹・古木200選の樹種と樹数。これは千葉県農林水産部森林課というところで、データを発行しております。これを見ますと、スギが一番多くて、イチヨウ、スタジイ、木更津市のものと非常に似ているんですけれども、だいたい、33種あります。千葉県のおもな巨樹・巨木リスト。

1番が清澄の大杉。種名はスギです。幹周が15.2m、樹高が43m、樹齢は500年。場所は鴨川市の清澄ですね。

それから次に、府馬の大クス。これは、ク

スとありますが、タブノキです。場所は香取郡の、府馬というところにあります。これはですね、水戸黄門がなんじゃもんじゃと言った木で、江戸時代でもうこれだけ大きかったということですね、相当大きな木です。タブノキのことを、別名はタマグスといいます。楠科の植物です。あとで解説しますが、たくさんあります。

次に、3番目が環の大楠。富津市の東和田にあります。千葉県で最初に、天然記念物に指定しました。非常に大きな木ですが、もうほとんど芯は枯れちゃって、まわりの、ひこばえが生えているような木です。あまり見栄えはしないです。

次の四番目が、安久山の大椎の木、これは椎の木としては、県内で一番大きいだろう、ということ、樹周が、幹周が12.1mあります。

次に、5番目が、千葉寺のイチヨウ。6番目、千本イチヨウっていうのが市川市にあります。7番目が神崎の大楠。8番目が高照寺の乳イチヨウ。9番、10番、11番、見て下さい、賀恵淵のシイ。これはスタジイですね。幹周が8.24m、推定樹齢が約5百年、お隣の君津市の、賀恵淵というところにあります。あと、先ほど日本全国ではクスノキが圧倒的に多かったんですが、千葉県ではスギが

多くあります。また、スタジイが多くあります。クスノキで大きいのはここにあげませんでしたけれども、これとほとんど同じ、幹周が、10mぐらいある木が、南房総市の、昔の和田町、上三原、嶺岡牧場から、和田町のほうへと行く道があるんですけれども、その近くに、大きな楠があります。これは、先ほどの環の大楠よりも大きいです。

いよいよ木更津市の巨樹・巨木に入ります。地域の生育環境。本市は森林の水平分布において、南西日本から、太平洋側に連続する、常緑広葉樹（照葉樹林）の東端に位置する、房総半島の中心部にあります。一方、山地の垂直分布にみられる、常緑針葉樹の、モミ・ツガ・カヤが点在すると共に、県北部や、北関東に多くみられる、北方冷温帯系の、落葉広葉樹も、丘陵地を中心に分布しています。常緑広葉樹・常緑針葉樹・落葉広葉樹が、混在し、暖地系、温暖地系と、寒冷地系の植物が、ともに生育しているのが本市の樹木相の特徴であります。樹木が巨木に成長するには、概ね100年以上の年数と適度な気候と地形、地質などが必須条件、不可欠です。温暖な気候と、降水量に恵まれた、地域の多くを占める、台地の表層部は、赤土と呼ばれる、厚い関東ローム層に覆われており、火山灰質で、透水性がよく、腐植土を含み、樹木の成



長には、適した土壌です。

次に生育場所。世界的にみると、巨木の生育場所は、人間の開発行為を免れた、自然豊かな場所に保護されている場合が多いです。日本では、屋久島の縄文杉がこれに該当します。国内、県内、市内では、神社、寺院、個人で保護されている樹木が圧倒的に多い。地域の生育場所も歴史的な、背景が反映されており、地目別の割合は、神社、寺院、個人敷地が、各々約30%を占め、神社の数が多く、巨樹、巨木の数が多く傾向にあります。日本人は山の木はみんな切っちゃってる、ということなのです。

神社と、寺院の数と巨木。これはちよつと、私が、無理やり持ってきたデータですが、神社数は市原市に及ばないが、地域面積あたりの神社数は1.34軒で、木更津市は一番多い。面積あたりの神社の数が多く、木更津市には大きい木がいっぱいあるわけです。有名な神社がいっぱいあるので、実際の巨樹・巨木の本数は市原市や君津市よりも少ないんですけども、密度が高いんです。

生育地。丘陵地に多く、平坦地に少ない傾向は明瞭であり、畑沢から桜井を経て、請西と、波岡地区から、鎌足の方面、そして、真里谷・茅野の一部に集中している。だいたいこのような傾向があります。樹種別の本数で

はスダジイが圧倒的に多いんですが、スダジイは114つて書いてあります。この114をグラフに入れると上突き抜けちゃうんで、半分の数値にしてあります。これだけです。だから、一番多いのは、60なんですけど、スダジイだけ114で、グラフをいじりました。これを見て、千葉県のデータと比較して、左からずーっと数えて3本あるモミの木の下に、上総桜というのがあります。これが大きい木で3本あります。それからですね、ほかのデータでないものにナツグミがあります。それから、モチノキがあります。このように、他の地域にない、樹種が非常に多いのです。木更津市は、植物、生物について、多様性に富んだ地域であるということが言えると思います。

木更津市の巨樹・巨木の特徴ですが、樹種数は33種で、千葉県の巨樹・古木200選の34種と同等です。スダジイが44.7%を占め、もつとも多く、上位3種で、全体の62%を占めます。際立った巨木はないが、県内や、近隣自治体と比較しても、サイズ、数とも引けを取りません。大きさそのものとしては、それほど大きくはないのですが樹種としては、非常に、際立ったものがあります。ナツグミ・モチノキ・ハルニレ・サイカチ・イトヒバなどは県資料にもない樹種です。特

にナツグミ・モチノキは、全国的にも上位に入ると思われます。非常に豊かで、いろんな珍しい木が、たくさんあります。

スギ・イチョウは多くないなど、ほかの地域と異なります。エノキは市内に広く、広範囲に、生育して比較的多い。イチョウは多くなくて、エノキが多いっていうのも特徴ですね。

次にいよいよ、木更津市の、代表的な巨樹・巨木について、説明していきたいと思えます。まず、善雄寺のイチョウ。これは「ぜんのおじ」と読みます。種名はイチョウ、所有者は善雄寺。幹周が、638cm。樹高が17m。

樹齢が推定450年。場所は茅野（昔の医光寺という古いお寺）です。これは、幹周が、木のかたちが、単幹、つまり一本の幹でできてる木としては、もつとも大きい木です。幹周が、638cmですから、3.14で割るとちょうど2mになります。非常に見栄えがします。県内でも相当上位に入る立派な木です。ただ、樹齢450年っていうのは、はかたつたわけじゃないので、はっきりしないんですけど。これも中がみんなうるなんですよ。がらがら。まわりのかわで生きているようなものです。ただまだ元気で銀杏はたくさんあります。2番目が、自性院のイヌマキ。種名はイヌマキ、所有者は自性院。幹周が、44

7 c m、樹高が16 m、樹齡がこれも推定450年、場所は請西です。中はみんなもう、がらがらなんです。まわりで生きていて非常に樹齡が高いんです。イヌがつくのは植物ではだいたい、あんまりいいやつじゃないんです。偽物というような意味。本物があります。ホンマキというのが。ホンマキはコウヤマキと言います。これは世界遺産の和歌山県の高野山にあります。ただ幸いなことに、イヌマキは、千葉県のシンボルツリーです。千葉県の木です。千葉県には、このイヌマキの立派な木がたくさん何本かあります。その中でも、これは、たぶん上位に入る立派な木だと思います。

3番目に、菅生神社のスタジイ。種名はスタジイ、所有者は菅生神社。幹周が、1805 c m、樹高が18 m、推定樹齡が400年。場所は菅生です。あと根回り、根回りが、953 c mありまして、これは、主幹って、真ん中の大きな、幹がですね。もう朽ちちゃったんですよ、枯れちゃって、まわりのひこばえが、みんな3 m以上になって、この環境省の測定方法によりますとみんな合計することになるので18 mにもなっちゃう。そうすると日本でトップクラスになっちゃうんです。測定の仕方によって変わりますが、非常に大きな木です。見栄えもします。この間に

も人間が入っていきます。そのくらい大きな木です。市内でも非常に上位に入る木であるということ、3番目に上げました。

次に4番目、松本家のナツグミ。これは、種名はナツグミです。所有者は松本家。幹回りが、377 c m、樹高が9 m、樹齡は推定300年、所在地は大稲。これはですね、木更津市の、指定天然記念物になっております。ただ、個人所有なので、非公開になっております。ナツグミというのは、日本の固有種です。日本と中国ぐらいにしか分布してないの、中国のデータはわからないんですけど、生物多様性センターのデータの中では、たぶん、それと比較しましても、トップクラスになります。もしかすると、日本で一番大きいかもしれません。全体としては、ナツグミですから、巨木としては、見栄えがしません。ただ、木更津市はお目が高いので、天然記念物にしてあります。すごいものだと思います。

5番目は大寺のサイカチ。種名はサイカチです。所有者は個人です。幹周は371 c m、樹高は8 m、樹齡は300年、所在地は大寺。これも個人所有なので、非公開です。このサイカチというのは、マメ科の植物です。県北部の野田市あたりでは、自然に生えているらしいのですが、県南部ではほとんどありません。

ん。これは千葉県の絶滅危惧種、レッドリストでは、Dランクに選定されております。市内では、この一本しか見つかっておりません。近隣では、君津市にあつたんですけど、枯れました。それから、館山市にもあつたんですけど、枯れました。富津市の中央公民館の庭にもありますが、それはこれに比べると半分ぐらいです。これはもう老年ですけど、富津市のものはまだ青年ですね。そのくらいの樹齡差があります。これは昔、この木は、若葉は食べられる、葉っぱはサポニンが多いので、しゃぼん、石鹸代わりになるんで植えられたんだと思います。非公開ですが、道端にありますんで、見ることは可能です。まあ、大きいことは大きいんですけど、見栄えはしません。

6番目。矢那の里山スタジイの森っていうふうな名前をつけました。スタジイがいっぱいあるんですけど、これは、種名がスタジイ、所有者は個人です。幹周が、1、253 c m、樹高が18 m、樹齡が350年、矢那です。非公開です。この家はですね、家に裏山がありまして、こういう木が5、6本生えているんですけど、個人の家なので、なかなか見るのは難しいですが、スタジイとしては非常に大きな木であるということが言えます。

9番目は大稲の稲荷神社のツガ。種名はツ

ガです。所有者は稲荷神社。幹周が330cm、樹高が30m、樹齢が、推定250年、場所は大稲です。神社ですから見ることは自由に見られます。このツガっていうのはですね、千葉県ではレッドリストのDランクになっている、貴重な樹種です。清澄の山中に行きますと、自然木で大きいのがあります。木更津では非常に少ない。このツガというのは、非常に材木として価値があるので、普通の木はみんな切られてしまつて、もう森にはないですが、たまたま神社で守られているという木です。

10番目、矢那のタブノキ、種名はタブノキです。所有者は個人です。幹周が540cm、540ですから、巨樹ですね。樹高が18m、樹齢は推定350年、矢那です。非公開ですが、ここも市道のわきにありますので、簡単に見られます、車も止められます。非常に大きいんですが、左側にエノキがあつて、これが邪魔してるんですけれども、それにも負けずに頑張ってます。ここはですね。昔の矢那村と真舟村と、烏田村の村境の辻あたりになつたんじゃないかなというところで、この木は、庚申塔を抱えています。石碑を。そういうことで、見栄えもいいし、これはぜひ行つたら、車停めて、見られたらいいんじゃないかなと思います。個人所有ですので、畑なん

かには入らないようにお願いします。

11番目。小浜のカズサザクラ。種名はカズサザクラ、所有者は小浜地区、幹周が683cm、樹高が20m、樹齢が推定300年、場所は小浜です。カズサザクラというのは初めて聞く方が多いと思うんですけど、上総桜は、大島桜と山桜の自然交雑種です。2003年に、千葉県から全世界に種名登録された、立派な学名を持った木です。これはですね、木更津の名花である、鎌足桜と同じです。鎌足桜はですね、上総DNA研究所、上総鎌足にある、県のDNA研究所が、DNAをゲノム解析した結果、山桜と大島桜の系統であるということを確認していただきました。この小浜の上総桜と、高倉観音、高蔵寺にある、鎌足桜について、私たちと植物調査をしていただきました、県立中央博物館の大場達之博士、著名な植物学者です。この先生が、上総桜であるということを確認してくれました。ということ、非常に、市にとつても貴重な木になります。これが、上総地方に多い、木更津、君津、それから、市原の一部に多いということ、上総の名前を付けて、上総桜という立派な種名がついております。木更津の一つの自然を代表する、植物だと思えます。次に12番目に移ります。稲荷森神社の、エノキ、種名はエノキ、所有者は稲荷森神社。

幹周が350cm、樹高12m、樹齢は350年、場所は木更津。木更津市街のど真ん中にある、古墳の上にある神社ですが、そこにあるエノキです。エノキとしては、県内でも相当大きい部類に入ります。市内では、もちろんトップですね。エノキは非常に成長が早いですけれども、これはもう、町のだ真ん中にある神社ですので、さうとう剪定されていますが、まだまだ元気で頑張ってます。

13番目、妙眞寺のムクノキ。これは、種名がムクノキ、所有者は妙眞寺。幹周が417cm、樹高が15m、樹齢が350年、場所は下郡。これもお寺ですから、見に行つても大丈夫です。これはですね、2019年の台風で上の方がみんなほとんど折れちゃつたんですよ。折れたけれども、また回復してまして、まだ長生きしそうです。非常にムクノキとしては、大きな木です。

14番目。八幡神社のスギ。種名はスギです。所有者は八幡神社。幹周が481cm、樹高が38m。樹齢が推定約400年、所在地は草敷です。木更津ではスギが非常に少ないんですけど、この杉は木更津市のなかでは一番大きいです。この神社は、いろいろ神社の資料を調べてみますと。江戸時代の初期に建てられた神社であるということがわかりますので、江戸時代の初期に神社の門、鳥居



の、門の近いところに植えられていますから、じゃあ、一緒なんだろうなということで、推定400年としました。それと、樹高がですね、三角計で測ってみましたけど、約38mあります。かなり誤差ありますけれども、木更津市で一番背が高い木じゃないかなということ、まだ上の方は元気ですね。



草敷 八幡神社のスギ 市内随一の樹高

15番目、安養寺のタブノキ。種名がタブノキ、所有者は安養寺。幹周は443cm、樹高が13m、推定樹齢が400年、所在地は祇園です。これは町の中のお寺ですから、だいぶ剪定されて上がなくなつて、まるまっていますが、それでもこれだけ太くなつてるといふことで、中はみんなうろです。これも皮だけで生きてるようなものですが、樹齢としても非常に高いし、太さもあるんで、タブノキとしても大きいほうであるということ、こ

こにあげました。

16番目。高蔵寺のスタジイ。これは、種名はスタジイ、所有者は高蔵寺、幹周は749cm、樹高が18m、推定樹齢が400年、所在地は矢那です。高倉観音の高蔵寺です。駐車場などからは見えない、藪の中ですが、非常に大きな木です。この高蔵寺はですね、木更津市の森林としては、いろんな樹種があつて、木更津市の森林の、樹層、木の層をみるには、非常にいい場所です。いい木が残っているのですが、その中でもこの木は大きい木であるということ、ここにあげてあります。いろいろな資料に比較しても、ひけをとらない大きな木です。

17番目。イトヒバ。所有者は光厳寺と言います。寺の管理者に聞きましたら、「こうごんじ」と読むと言われました。幹周は、幹周は417cm、樹高15m、樹齢が推定300年、所在地は根岸です。このイトヒバというのは、ヒノキとサワラをかけあわせた、人間が作り出した木です。江戸時代に植木として、作りだした木、ソメイヨシノとおんなじような、人間が作り出した、交配種です。でもこれはちゃんと子どもを生みます。ただ、生えるかどうか、聞いたことはありません。種はできます。こうゆう人間が作り出した木も、こんなに大きくなつてるといふ。これは

ですね、落雷にあいまして、上のほうはもう枯れちゃっています。それでもまだ元気そうですね。こうゆう人間が作り出した木もあるということ、あげました。

18番目。諏訪神社のモチノキ。種名はモチノキです。所有者は諏訪神社、幹周は439cm、樹高が18m、樹齢が300年、場所は桜井です。モチノキというのも、これも南方系のあたたかい地方の系統の、温暖帯の照葉樹ですね。木更津にはモチノキはけっこうあります。ただ、県北部や県南部には少ないです。この辺がちょうどいい所で、ということでしょう。モチというのは、昔、小鳥を捕まえるのに、トリモチというのをこの樹脂から作った木です。この木はオス、メスがあるんですけど、これも非常に形態が変わつていて、オスどうしだと、だれかがメスになつちゃうんですね。そうゆう特殊な木ですが、これはもう、オスカメスカ判定がつかません。ということ、これは県資料にもないし、県内でも国内でも、有数の大きな木だと思えます。

19番目、羽雄神社のモミ。種名はモミです。所有者は羽雄神社、幹周は328cm、樹高が33m、樹齢が300年、茅野にあります。モミの木というのは、あちこち山のだいたい尾根の上に自然に生えてるのが多い

んですよ。一応高山系の木なんですけど、非常に平地にもあって、あちこちに生えています。寿命の短い木で、ほとんどモミの木つてのは、建材として役にたたないんですよ。建築材料、建物には、木が弱くて、あまり役にたたないんで、昔から、棺桶と塔婆の材料だと、いうような木ですね。ただ、神社ですから、大事に育ててありますが、神社の管理者にいうと、もういつ倒れるかわからないので、切っちゃいたいというような話をしました。まだモミの木は木更津市にあちこちにありませんで、あまりそれほど、重要な木ではありませんが、市内にある、普通にみられるモミの木ではこれが一番大きいかなあということですよ。

20番目。鎌足小学校のクスノキ。種名はクスノキ。所有者は鎌足小学校、所有者は鎌足小学校ですから、木更津市になりますね。幹周は704cm、樹高が25m、推定樹齢が150年、所在地は矢那です。学校ですから、普通には入れません。クスノキは、全国的には、非常に多い。県内でも多い。紹介しましたが、木更津市はそんなに大きなものはないんです。クスノキというのは、比較的、古民家によく使われています。腐らないんですよ。古民家の、土台ですね、根太の下に使う。土台に使います。だから、みなさん、太田山

にある旧安西家住宅なんか行きますと、床の下見ると、楠が使われています。そうゆうことで、クスノキというのは、比較的昔は需要が多かったんで、大きい木が残ってないんじゃないか、いう感じですね。あるとすれば、神社かお寺です。

21番目。長楽寺のスタジイ。長楽寺は、みなさんご存知のように、請西にあるお寺ですが、このスタジイ、これは528cmで、巨樹になりますので、大きい木であるということから、ここにとりあげました。

22番目、矢那のボダイジュ。これは、ボダイジュです。見栄えはあまりよくないんですけど。所有者は個人。幹周は370cm、樹高が18m、推定樹齢が300年、矢那で、非公開です。ボダイジュというのは、ほんとのボダイジュはインドボダイジュ、お釈迦様が悟りを開いた、インドボダイジュですが、こちらは、中国原産のボダイジュ。唐菩提樹ですね。これは平安時代に、たぶん、遣唐使かなにかが持ち帰ったものが、全国のお寺や民家に植えられた、というものだと思いますね。由来ははつきりしませんが、この実から数珠を作ったともいわれております。シナノキ科に属します。シナノキに非常に似ている、ボダイジュです。お寺にはこれほど大きい木はないんですけれども、ときどき植えられて

います。木更津の調査では、シナノキもありました。ボダイジュもありました。

23番目。矢那のカツラ。種名はカツラです、所有者は個人です。幹周は430cm、樹高15m、推定樹齢200年、所在地は矢那です。カツラというのは、北海道から九州まであります。千葉県には、清澄のほう、一番奥に、一本だけ雄の木があります。それが残っているだけで、県内には普通ありません。だから、みんな他に、矢那川ダムとか、鎌足公園とかにいけますと、多くあるんですけども、みんな植えたものです。これも植えられたものが、成長してここまで大きくなったという木ですね。

24番。諏訪神社のタブノキ。種名はタブノキ、所有者は諏訪神社、幹周は400cm、樹齢が約250年、所在地は桜井です。これは国道を下っていくと、中央病院よりもちよつと北側の左側に、国道から見えます。よそ見しないように見て頂ければ、大きい木がそびえたつてるんで、そこから見える大きな木です。

25番。真如寺のヤマザクラ。種名はヤマザクラ、所有者は真如寺、幹周が536cm、樹高が16m、推定樹齢が120年、場所は真里谷です。この幹回り536cmつていうのは、双幹で2本の木からなってます。だか



ら、半分に分けると250cmなんで、あまりそれほど大きくは、ないんですけれども、桜としては、山桜としては、だんぜん大きいです。これ非常に早咲きで、3月の20日ごろにはもう満開になっちゃうと思います。葉と花が一緒に出る。非常に派手な木です。ピンク色じゃない、むしろ、黄色みがかった色です。見栄えがするので、花の時期に見に行かれましたらいいんじゃないかなということでもここにあげました。

26番、久津間のタブノキ。種名はタブノキ、所有者は個人です。幹周が570cm、樹高18m、推定樹齢が200年、場所は久津間です。非公開です。久津間というところは、みなさんご存知のように、小櫃川のもう河口に近いところで、地質学的にいうと、沖積地になります。山から流れてきた土砂が堆積したところで、沖積平野にもこんな大きな木がありますよということ、市内の分布のなかにも、こうゆうところにもあるということ、ここに紹介しました。

27番目。畑沢の浅間神社のスタジイ。所有者は浅間神社、幹周が464cm、樹高が16m、樹齢は推定400年、場所は畑沢です。鎌倉時代、いざ鎌倉に駆けつけるときに、旗竿を調達した、ということが名前の由来で、畑沢になったらしいんですけど、そのくらい

の時代からあったかどうかわかりませんが、神社の鳥居から、入ってすぐ近くにあるんですけれども、全部うろです。なかに人が入れます、大人が入れます。ということ、この樹齢はさっぱりわかりません。実際もつと年寄りかもしれません。

28番目、光福寺のヤマモモ。種名はヤマモモ、所有者は光福寺、幹周が253cm、樹高が15m、樹齢が200年、所在地は桜井。ヤマモモですので、幹周が300cm以上になるのは非常に少なく、253cmですけれども巨木に属します。それと、非常に植木屋さんが手入れしてくれてますんで、造形の美ですね。造形した木がこんな大きくなる。いうことでここにとりあげました。このお寺の住職さん、戦時中に、この木に実がなつて、実を食べたという話をしてくれました。たんで、戦時中は実がなつてたらしいです。29番、高藏寺のスギ。先ほど高藏寺紹介しましたんで、省略します。

30番、下郡のスタジイ。所有者は個人です。幹周が567cm、樹高が16m、推定樹齢300年、下郡です。これはですね、なぜここへあげたかという、途中で合体しているのがわかりますね。こうゆう合体した木のことを、連理木といいます。連理木というのは、平安時代に唐の詩人で白居易という詩人

がいたんですが、白居易の詩のなかに、「天に在らば 比翼の鳥 地に在らば 連理の枝」というのがあります。ようは、夫婦は仲良くしなさいと、夫婦が深く愛し合い、互いに離れがたい間柄にあるという語で、くっついてるといふことで、こうゆう木を連理木といいます。こんな大きな木もありますよということ、紹介しました。

31番目、牛袋の浅間神社のクスノキ。種名はクスノキです。牛袋の浅間神社にあるクスノキで、幹周が514cmの、巨樹があります。

32番目は、笹子の阿弥陀寺のスタジイ。これは阿弥陀寺の奥のほうに、非常に、自然豊かなところで、大きな木がありますということ、です。

33番目。矢那のイロハモミジ。種名がイロハモミジで、所有者は個人です。幹周が229cm、樹高が9m、推定樹齢が80年です。イロハモミジも300cm以上になるとは、ほとんどない。ということ、ここにとりあげました。非常に紅葉が綺麗。ほんとに紅葉します。今、紅葉のまつ盛りなんです、個人の家なんで、なかなか許可もらわないうと行けないです。

34番目。曾根の八幡神社のケヤキ。ケヤキです。ケヤキいままで出てなかったんです

けど、曾根の八幡神社にあります。幹周が340cm、樹齢が350年、所在地は曾根です。中郷地区ですね。中郷地区にも、これだけ立派な木がありますよ。この隣が釈蔵寺、市の指定の文化財の、木造の仏像がある、お寺の隣にあります。向こうの方へ行つたとき、見て頂きたいと思います。

35番目、羽雄神社のスギ。

36番目、矢那の熊野神社のモミの木。これは請西東の道路のほうから見ると、熊野神社の上に、森の上に突き抜けている木が何本かあります。ここにモミの林があるというところで、ここにあげてあります。

37番目、弘蔵寺のムクノキ。弘蔵寺のムクノキは、これは下望陀なんですけど、ここも小櫃川のほとりのお寺で、こういう平坦地にもムクノキは大きく育ちますということであげました。

38番目、福壽寺のタブノキ。タブノキですね。これも福壽寺ですが、場所は長須賀にあります。長須賀の平坦地にありますけど、ここでも、歴史のある、お寺にもこういう大きな木が育ってますよ。

39番目、真里谷のケヤキ。これは非常に自然豊かなところで、ケヤキの大きい木なんですけど、幹周が363cm、樹齢は200年です。紅葉が非常に綺麗で、道から見えます。

宅地に入らなくても、紅葉が綺麗なんで、ここにあげました。

最後の40番。桜井の諏訪神社のスタジイの森。桜井の諏訪神社は、峰の薬師の隣ですね。先ほどの中央病院の近くの神社です。ここはスタジイの巨木がいっぱいある神社。なので、スタジイで300cm以上が6本あるんで、森としてとりあげました。以上が代表的な、木更津市の巨樹・巨木です。

木更津市の巨樹・巨木目録。上に名前が書いてありますから、私の名前と一緒に、調査協力してくれたボランティアの方々の名前が書いてあります。これは市史にそのまま載せる資料です。

この中で、この表の見方ですけど、左の番号はただの、順番をつけただけの番号で意味はありません。種名は先ほどから申している通りの種名です。

それから次が科名ですね。科名は最近いろいろ変わっているんですけども、例えばエノキなんてのは、古い資料はニレ科になってますが、今はみんなDNA解析によって、APG分類という方法でアサ科になってます。

学名は、種名と学名が書いてあります。あとは幹回りの実測値、樹高、目視で見た樹高。それから、樹形。樹齢は推定ですね。樹勢は元気か、いいか、わるいか、衰えてる

かというようなことを書いてあります。所有者、管理者は、神社やお寺や、公共機関は、全部そのまま書いてありますが、個人の場合は個人として、個人名は書いてありません。ただ、市の天然記念物は書いてあります。生育地は、現在の木更津市の町名になっております。地区名ごとに分けて書いてあります。



測定の様子 桜井日枝神社のエノキ

全部で255本記録しました。木更津市にあるものは、ほぼ90%ぐらいは、ここに載つてると思います。ただ、スタジイだとか、スギだとか、ケヤキとかはね、近いやつっていうのは、若干見落としがあると思いますが、

大部分はこのデータの中に、残っているというところで、私からの話は、以上で終わりたいと思います。

### 市史編さん部会の活動報告

市では『木更津市史』を編さんするため、資料を調査しています。皆さんのお手元にある古文書や古い町並みの写真、農具、民具などは、木更津の歴史を知る手がかりとなります。お持ちの方は、情報提供のご協力をお願いします。

### 考古部会

刊行に向け、原稿執筆、図版作成を行っています。図版についてはカラー化のための再撮影を力を入れています。

### 古代部会

令和6年3月末の「木更津市史 史料編4 古代」の刊行に向け、印刷準備に入っています。

### 中世部会

時代・テーマごとに分担し、部会委員各自で調査を行っています。

### 近世部会

県内史料収蔵機関調査及び市内外旧家等訪問調査を行うとともに史料編掲載候補史料の選定をし、翻刻を進めています。

### 近現代部会

新聞記事や市役所文書から史料の選定を行うとともに社寺関係史料の調査を行います。並行して史料編掲載史料の選定と筆耕を進めています。

### 民俗部会

部会会議を開催し、調査方法の検討を行うとともに市内の現地巡見を実施しました。



金田地区巡見の様子

### 自然部会

令和6年4月の「木更津市史 自然編 資料」の木更津市史デジタルアーカイブでの公開に向けて準備を行っています。

### お知らせ

#### 刊行物のご案内

木更津市史編さんに関する刊行物を文化課で販売しております。

#### 市制施行七〇周年記念図説木更津のあゆみ

(A四版本文二七四ページ)二〇〇〇円内容木更津の歴史・文化・自然を写真や図版を多く使ったわかりやすく解説しています。



#### 木更津市史研究』創刊号(A四版本文一〇二ページ)五〇〇円内容

勤王の歌人・斎藤昌磨と安政の大獄(實形裕介) 木更津市域への空襲の実相に迫る(栗原克榮) 木更津の獅子まきについて(田村勇) 震災後の希望の学舎(渡邊義孝) 関東大震災復興から見た金田小学校校舎(高木澄子) 木更津市の陸生爬虫類(成田篤彦) 東京湾小櫃川河口干潟のシオマネキについて(相澤敬吾) 木更津市の魚類(澤田目)(田村満)

#### 第二号(本文一〇八ページ)五〇〇円内容

世における木更津と本牧の交流(上)(盛本昌広) 江戸時代における木更津市域の教育環境(上)(川崎史彦) 日露戦争後の地域社会(池田順) 木更津県における育児救済政策資料からの一考察(駒早苗) 浸透実験池の水質の



特徴とカワウコロニーがその水質に与えた影響について」(湯谷賢太郎) 木更津市の蝶」(相澤敬吾) 木更津市の汽水・海水魚」(田村満) 木更津市の両生類」(成田篤彦)

**第三号**(本文六八ページ)五〇〇円内容 中世における木更津と本牧の交流(下)」(盛本昌広)

江戸時代における木更津地域の教育環境(下)」(川崎史彦) 木更津市のバツタ目」(成田篤彦) 木更津市のサクラ・見分け方と生育地」(木暮文雄)

**第四号**(本文八四ページ)五〇〇円内容 松本

栄子と彼女をめぐる人々」(駒早苗) 百年前のパンデミック「スペイン・インフルエンザ」と地域」(栗原克榮) 房総の郷土史家小熊吉蔵とその生涯」(文化課) 木更津の獅子神楽舞について」(田村勇) 金鈴塚古墳石室・石棺のSAM/MVS

三次元計測」(本間岳人) 木更津市のカメムシ目」(成田篤彦)

**第五号**(本文一九六ページ)五〇〇円内容 鎌

倉時代の畔蒜庄」(盛本昌広) 木更津市のヤマトケルとオトタチバナヒメ伝説」(入江英弥)

木更津の地名1(吾妻、木更津1・2、貝渕、桜井)」(田村勇) 穴劔八幡神社例大祭運営奉興を通じてみる町づきあいの諸相(和田健) 諏訪谷横穴墓群出土人骨から考察する被葬者について」(谷畑美帆・神澤秀明・角田恒雄・原山ボロン崇) アシハラガニの生活」(相澤敬吾) 木更

津市の南方系昆虫やカニ類の侵入と生息状況」(成田篤彦) 維管束植物分布合同調査の概要」(木暮文雄)

**木更津市史編さん事業公開講座記録集『平成**

**二十六～二十八年度版』**(A四版本文九〇ページ)五〇〇円内容 盤洲干潟のいきものたち」

中世～戦国時代 江戸湾をめぐる武田氏 戦国時代の木更津と真里谷武田氏」市史を編さんするということ こんなに身近に宝があった！ 木更津の古民家・近代建築をたずねて」

**木更津市史編さん事業公開講座記録集『平成**

**二十九年度版』**(A四版本文三二ページ)五〇〇円内容 暮らしから見つける木更津の文化資源」

**木更津市史編さん事業公開講座記録集『平成**

**三十年度版』**(A四版本文十五ページ)五〇〇円内容 明治150年記念木更津地域から見た明治」

**その他のお知らせ**

**木更津市史デジタルアーカイブを公開しています。**

木更津市史編さんで調査した歴史資料をインターネット上で公開しています。

内容は、千葉県指定有形文化財の「天正検地帳」などの画像と翻刻文、戦国時代の城跡である真里谷城跡、天神台城跡、要害城跡の陰陽図です。無料で検索・閲覧することができます。こちら

の二次元コードからアクセスできますので、ぜひご覧ください。

(事務局)

公開URL : <https://adeac.jp/kisarazu-city/>



編集後記

このたび、「木更津市史編さんだより」第8号を発行します。

令和5年度は、「史料編4 古代」の刊行および「自然編 資料」の公開に向けて、市史編さんに係る調査・研究を進めました。今後も更に刊行を進めていきたいと思えます。

なお、編さんだよりは、市のホームページでもご覧いただけますので、ご活用ください。

(事務局)

